

治水の歴史を伝える土木遺産

ひゃっけんがわ に あらて
百間川二の荒手ほか

岡山市中区竹田・中島地先

百間川は、岡山城下を旭川の洪水から守るために造られた放水路です。旭川との分流部には長さ約1.3kmの「背割堤」が、その南端付近には「二の荒手」が築かれています。百間川分流部の改修工事に伴い、平成28年4月から6月まで、この背割堤と二の荒手の調査を実施しました。

二の荒手は、貞享3（1686）年から翌年にかけて築かれた3か所の荒手（洗堰）のひとつで、増水した旭川から百間川に流入した水をせき止めて勢いを弱め、下流部の被害を軽減する機能を持っています。今回の調査によって、現存する荒手が約160mにわたってその全容を現しました。表面を覆う張り石には、あちこちに補修の跡があり、長年にわたる洪水との戦いを物語っています。

二の荒手をはじめとする百間川の土木構造物は、築造から300年間あまり、岡山の街を洪水被害から守り、その発展を陰で支え続けてきました。百間川の改修工事では、川の治水機能を向上させることと同時に、これら構造物の歴史的意義を重視し、二の荒手については一部を補修したうえで保存することが決まっています。防災に向けられた先人の知恵と努力を知り、郷土の歴史を学ぶための教材として、二の荒手に新たな役割が期待されています。（岡本泰典）



百間川二の荒手と背割堤（南から）

続報! 国道2号(玉島笠岡道路)改築工事に伴う発掘調査

わだだに
和田谷遺跡

浅口市鴨方町六条院西

一般国道2号(玉島笠岡道路)改築工事に伴い、昨年の10月から発掘調査を行っています。遺跡は北西に延びる丘陵地の南側から西側にかけての緩斜面に位置しており、弥生時代中期後半から鎌倉時代にかけての遺構や遺物が見つっています。

弥生時代の遺構としては、丘陵斜面上方の南東から北西に向けて流れる溝を数条確認していますが、住居などは見つかりません。調査地内で集落の様子が明らかになってくるのは、古墳時代の後期になってからで、段状遺構や土坑が見つっています。

調査地の北端では鍛冶炉を4基確認しています。いずれも奈良時代のもので、鉄器の生産や補修を集落の一角で行っていたと考えられます。鍛冶炉は直径20cmほどの大きさで、底に粘土を貼り付けて作られ、高温で焼けています。鍛冶炉の周辺からは、鉄器や鉄滓も少量ですが出土しています。鍛冶炉のすぐ下方には、長辺が7.5m、短辺6m、深さ約30cmの竪穴遺構が見つかり、鍛冶作業に関連する遺構と考えられます。平安時代になると集落は拡大し、掘立柱建物5棟や柱穴列、土坑などが見つっています。掘立柱建物のうち何棟かは、建物の内側にも床を支える柱がある総柱建物で、倉庫としての利用が考えられます。後の鎌倉時代になっても掘立柱建物6棟や土坑などを確認しており、古墳時代から中世にかけて断続的に集落が営まれていたことが明らかになりました。

今年度は斜面上方の隣接地を調査中で、これまでのところ奈良時代から鎌倉時代にかけての遺構や遺物が見つっています。(石田爲成)



古墳時代の段状遺構(西から)



奈良時代の鍛冶炉と竪穴遺構(南西から)



奈良時代の鍛冶炉(南西から)



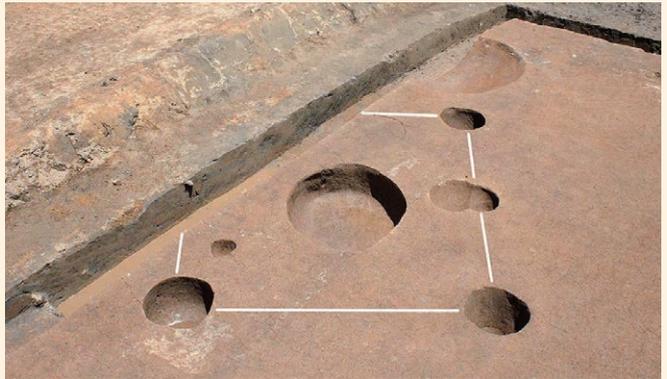
平安時代の掘立柱建物群(東から)

一般国道180号（総社・一宮バイパス）改築工事に伴い、4～6月の3か月調査を行いました。周囲は平成25・26年度に調査が終了し、弥生時代から近世にかけての集落遺跡であることがわかっています。今回の調査では弥生時代から近世の竪穴住居2軒・掘立柱建物2棟・土坑5基・溝3条を確認し、これまでの調査成果に新たな知見が加わりました。

調査区の北東端に位置する弥生時代後期（約1,900年前頃）の掘立柱建物は、柱間が2間×1間で、桁行3.27m、梁間2.71mの大きさです。この掘立柱建物のちょうど真ん中には長軸1.45m、短軸1.2m、深さ43cmの土坑が見つかりました。このように、掘立柱建物の中央に土坑が位置する事例は、刑部遺跡における過去の調査でも3例確認でき、いずれも弥生時代後期の遺構であることがわかっています。また、近隣の遺跡では南溝手遺跡（総社市南溝手）や百間川原尾島遺跡（岡山市中区原尾島）で報告例（2例共に弥生時代後期）があります。

掘立柱建物に伴う土坑の全てが同じ性格をもつものであるとは言えませんが、一例として食料を備蓄しておくための屋内貯蔵穴と考えることが可能です。発掘調査中は個々の遺構を個別で調査することが多いのですが、このように一見無関係に見える遺構同士をつなげることで、新たな視点や解釈が生まれることもあります。

（松尾佳子）



掘立柱建物と土坑（南西から）

まえだ
前田遺跡

倉敷市船穂町船穂

県道倉敷笠岡線道路改築工事に伴って前田遺跡の発掘調査を行い、古墳時代の塩作りに関わる炉跡と土坑を検出しました。

古墳時代では、塩分濃度を高めた海水を土器の中で煮詰めて塩を得ていました。この時使用した専用のうつわを「製塩土器」と呼びます。今回検出した古墳時代後期の遺構からは製塩土器がたくさん炭とともに見つかり、ここで塩作りが行われていたことがわかりました。

海水を煮詰めた炉の跡は1.2×2.0mほどの隅丸長方形で、掘りくぼめた穴の底に直径3～5cmほどの小石を敷き、その上から粘土を貼るなど、防湿のための工夫がなされていました。

このほか、出土した遺物の中には炉跡や土坑よりも古い、古墳時代前期の製塩土器もあります。

平城京跡（奈良県）から、奈良時代に浅口郡船穂郷から塩を税として納めていたことを示す木簡が発見されていましたが、今回の調査結果から、この地域では長い間塩作りが行われていたことが明らかになりました。

（藤井翔平）



防湿のために小石を敷いた炉の跡（南から）



製塩土器が廃棄された土坑（北西から）

報告会「ここまで分かった古代吉備2」

7月2日（土）の午後、県立博物館講堂において報告会を開催しました。今回は、平成26年度に「ここまでわかった古代吉備－倭人伝の時代」と題して開催した連続講座の続編で、縄文時代～江戸時代にわたる最新の研究成果を、3本の報告にまとめてご紹介しました。当日は、真夏の暑さにもかかわらず、定員を大きく上回る160名の参加がありました。

吉備における農耕社会の成立と展開

近年、土器に残された植物などの圧痕の調査研究が進み、岡山県内においても縄文時代後期以降にダイズ等の栽培マメの存在が確認されるなど、当時の植物利用の様子が明らかになってきています。また、農耕の開始を考えるうえで重要なイネの存在については、縄文時代前期まで遡る資料も報告されていましたが、現時点での確実な資料は、縄文時代晩期後半（突帯文土器期）以降に下るようです。本格的な水田稲作を基盤とした吉備の農耕社会は、岡山市津島遺跡で確認されている水田や集落のように、弥生時代前期に成立して以降、発展を遂げていきます。弥生時代後期になると、岡山市百間川遺跡群での発掘調査で明らかになっているように水田域は飛躍的に拡大します。また、旭川や足守川流域を中心に大規模な集落が営まれるとともに、塩や鉄器など様々なものが集落で生産され、倉敷市榑築遺跡のような巨大な墓も築かれるようになります。これらの吉備の繁栄は、広く展開した水田による豊かな生産力が基礎になったと考えられます。（石田爲成）

古墳時代の吉備と畿内

「吉備の三大古墳」と呼ばれる造山古墳・作山古墳・両宮山古墳は、全国的に見ても傑出した規模をもつ前方後円墳です。特に5世紀前半の造山古墳は、同時期の可能性のある石津丘古墳（伝履中陵）とほぼ同規模であり、畿内の大王墓に匹敵するものと評価されます。ところが、畿内の大王墓に見られる盾形で二重、三重にめぐる周濠は、吉備の造山・作山古墳にはありません。

5世紀後半、巨大古墳が備中（造山・作山）から備前（両宮山）に移りますが、畿内から導入された二重の周濠が、両宮山古墳などで出現します。この頃の埴輪の特徴からも、備前地域と畿内地域の関係がうかがえ、備前地域が相対的に力を伸ばしたのではないかと推測されます。

その後、6世紀後半には再び古墳の規模において備中勢力が優勢になり、こうもり塚古墳は中国・四国・九州地方で最大の規模を誇ります。7世紀の方墳も備中地域に多く見られますが、中心部よりも北部の大谷・定古墳群が目立ち、備中の中心部では古代山城、鬼ノ城が築かれます。（尾上元規）

古代以降の吉備

「古代駅路と国府・国分寺」 駅路とは、古代国家が整備した道路のことで、中央（都城）と各地方（国府）相互の情報伝達のため、両者を最短距離で結んでいました。県内には、山陽道とその支路である美作道のほか、山陰道とを結ぶ因幡道が走っており、近年発掘調査が行われています。こうした駅路は、国府・国分寺の配置や条里制の施工等と深く関わっていることが指摘されており、律令国家によるグラウンドデザインの基準線であったようです。その整備は、律令国家にとって中央集権国家を建設する上で最重要施策の一つでした。

「百間川と後楽園」 百間川は、岡山城下を旭川の洪水から守るために造られた人工の河川（放水路）です。一方、旭川の川岸にある岡山後楽園は、岡山藩主池田綱政の命で築かれた大名庭園です。その造営の背景には、百間川の整備によってこの場所が洪水被害を免れるようになったことが挙げられます。百間川の築造と新田の開発、後楽園の築庭は密接に関連しており、現在に続く土地基盤や景観を形成した、江戸時代を代表する土木遺産と言えます。（高田恭一郎）



報告会の様子

平成28年度の催し物案内

講座「吉備路の考古学」

吉備路の遺跡をテーマに、講義と見学を組み合わせた全3回の連続講座を開催します。第1回は、9月24日(土)に「弥生の村と墓」、「造山・作山古墳とその周辺」について講義を行いました。

第2回は、「巨石墳から見える吉備」、「吉備の道をたどる」の講義を予定しています。

会 場 岡山県立博物館 講堂(岡山市北区後楽園)
日 時 平成28年11月27日(日) 午後1時～4時
定 員 80名(申込期間10月24日～11月7日、申込多数の場合は抽選)

第3回は、造山古墳や備中国分寺など、吉備路の遺跡見学を行います。

会 場 造山古墳、備中国分寺ほか
日 時 平成29年2月25日(土) 午前9時～午後4時30分
定 員 40名(申込期間1月23日～2月6日、申込多数の場合は抽選)



岡山市造山古墳

津島やよいまつり

史跡津島遺跡の所在する岡山県総合グラウンド内に整備された津島やよい広場、遺跡&スポーツミュージアムにおいて、弥生時代の道具を使った稲の穂摘みや杵すり、火起こし、勾玉づくりなどの古代体験や、復原された住居等をめぐるクイズラリーを行います。

会 場 岡山県総合グラウンド(岡山市北区いずみ町)
津島やよい広場、遺跡&スポーツミュージアム
日 時 平成28年10月29日(土)・30日(日)
午前10時～午後3時
定 員 なし(申込不要、混雑時は制限あり)



弥生人に扮して記念撮影

ふるさとの山城探訪

岡山県内の中世山城を訪ねて、城のつくりやその地域の歴史について学びます。

会 場 ふたごやまじょうあと 両児山城跡(玉野市八浜町八浜)
日 時 平成28年12月10日(土) 午後1時～4時
定 員 30名(申込期間11月14日～28日、申込多数の場合は抽選)



昨年度の様子(岡山市金川城跡)

講演会「群雄の城ー備前・播磨ー」

中井均 滋賀県立大学教授、山上雅弘 兵庫県立考古博物館学芸員、澤山孝之 当センター総括副参事を講師に、中世に築かれた山城について備前・播磨を中心に講演します。

会 場 岡山県立図書館(岡山市北区丸の内)
日 時 平成29年1月21日(土) 午後1時～4時30分
定 員 120名(申込期間12月12日～26日、申込多数の場合は抽選)



和気町天神山城跡

ようこそ！ 古代吉備文化財センターへ

吉備の中山にある岡山県古代吉備文化財センターは、県内に所在する埋蔵文化財の調査・研究を行う機関として昭和59年11月に開所し、今年で32年目を迎えます。これまでに、当センターで発掘調査を実施した遺跡は500か所以上を数え、保管している出土品は約52,000箱にもものぼります。

こうした調査成果を広く一般に公開するため、出土品の展示や考古学の講座、古代技術の体験教室などを開催しています。みなさんのご利用をお待ちしています。



展示

本館1階の展示室では、センターが保管する出土品の一部を分かりやすく展示しています。このほか、さまざまなテーマにもとづいて年数回の企画展を開催しています。年末年始を除いて、午前9時～午後5時まで、無料で公開しています。ぜひ一度お越しください。



出土品の保管



収蔵庫では、県内から見つかった出土品を整理箱に収納して保管しています。

ホームページのご

古代吉備文化財センターの利用案内、講座・体験文化財情報を掲載しています。

URL ▶ <http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/>

メールマガジン「**大地からの便り**」

メールマガジンにご登録いただくと、発掘調査や最新情報を電子メールでお届け

古代吉備

検索 

本館2階では、出土品の整理作業を行っています。出土品を水洗いして遺跡名などを書き込んだ後、破片を接着剤で繋ぎあわせて元の形に復元します。そして写真や図面の記録を作成します。これらをまとめた報告書を刊行し、全国の公立図書館や大学、研究機関などで公開しています。



出土品の整理



本館2階では、木製や金属製の出土品を保存する処理も行っています。



講座・体験



児童学習室では、いろいろな時代や遺跡について紹介する講座や、土器や石器、勾玉・鏡などの製作、草木染め、塩作りなどの体験教室を開催しています。また、遠足や校外学習でのセンターの施設見学や職場体験などでの利用も受け入れています。詳しくはホームページをご覧ください。



案内

等のイベント情報や

kodai/kodaik.htm

読者募集中!

刊行物・イベントなどの
します。

◆山陰と山陽を結ぶ交流拠点

今回ご紹介するのは、岡山県北部・美作地域の山間に位置し、苦田ダムの建設に伴って平成7年度から16年度に実施された発掘調査によって明らかになった遺跡群です。ダムの建設により湖底に沈む谷底平野とその周辺の丘陵上を巡る湖岸道路を調査対象とし、23遺跡、のべ約23万㎡という広大な面積を調査しました。結果的には、縄文時代早期から近世にかけての非常に長期間にわたって断続的に、人々がこの地で活動していた様子が明らかになりました。

さて、ここが山間の地にもかかわらず、人々が断続的に住み着いたのには訳があります。ここでは、端的にその理由が読み取れる縄文時代晩期から弥生時代の調査成果をご紹介します。

縄文時代晩期には、谷底平野の久田原・久田堀ノ内遺跡に集落が形成されます。目を引くのは、多数の東日本系の土器です。遠くは東北～北陸地域に系譜を持つものが確認されています。ほかに、北九州産の可能性のある玉や隠岐産の黒曜石なども確認されています。また、遺構に注目すると、堅穴住居の中央穴の両脇に小規模な柱穴をもつ松菊里型と呼ばれる、朝鮮半島に起源をもち、九州から西日本にかけて広く分布するものも見つかっています。

続く弥生時代も谷底平野に中期～後期前葉の集落が認められます。中期後半になると、谷底平野を取り囲む丘陵上にも集落が展開します。この時期は山陰地域など周辺地域でも丘陵上に集落の形成が認められることから、関連した事象と考えられます。遺物では、山陰に系譜をもつ玉作りの一連の工程を示す資料（久田原遺跡）を筆頭に、土器も山陰地域との共通性をもつものが認められるなど、弥生時代も他地域との交流をうかがわせる遺構・遺物の存在が注目されます。

この地は県北中央部を広く潤す吉井川の上流域に位置し、川に沿って約20km遡れば分水嶺の人形峠に到達ができ、そこから鳥取県側の天神川を下れば約20kmで日本海に到達することができるような交通の利便性が高い場所にあたります。縄文時代からすでにそのルートを利用して盛んに交流していた人々の姿を、苦田ダム遺跡群の調査成果は雄弁に語りかけています。

（河合 忍）



東日本系土器（久田堀ノ内遺跡）



玉作り関連資料（久田原遺跡）



編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136 岡山市北区西花尻1325-3
TEL (086) 293-3211 FAX (086) 293-0142
<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>

- 交通案内 JR山陽本線庭瀬駅下車徒歩40分
JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分
- 業務時間 AM8:30～PM5:15
- 休業日 土・日曜日及び祝日、年末・年始
- 展示室の開館 AM9:00～PM5:00

年末・年始を除き、土・日・祝日も開館しています。
ただし、臨時に休館することがあります。